

産婦人科医師数は本当に減っているのか？

1 問題について

近年、産婦人科医師数や病院数が減少していて、緊急時に近くの病院で診てもらえないなど、妊娠・出産に関して安心して過ごせない環境になってきていると報じられています。当たり前のことですが、お産は昼夜の時間を問わないため、それに対応する産婦人科医師は常に待機していなければならない、30時間以上の連続勤務をしているケースもあるようです。そのような過酷な勤務環境のために若い医師の中で産婦人科を希望するものが少なくなり、現在のような産婦人科医師不足の問題が生じてしまったようです。

それでは、本当に産婦人科医師数や病院数は減っているのでしょうか。実際の統計データを見て検討してみましょう。

リンク→統計地図とは

データ→平成18年 医師・歯科医師・薬剤師調査(厚労省)

統計地図は学習指導要領の指導内容として設定されていないが、概念的に難しいものではなく、また社会での活用事例も非常に多いため、教材として扱う価値があるものと思われる。本教材では、折れ線グラフと統計地図を用いており、教師の扱い方次第では小学校高学年を対象としての実践も可能であろう。産婦人科医師、妊娠・出産という題材であることを勘案すると、中学校3年生以上くらいが妥当であるかもしれない。

現実的には指導内容に関して一番幅を持たすことのできる数学活用として設定した。数学活用に関する記述「社会生活において数学が活用されている場面や身近な事象を数理的に考察するとともに、それらの活動を通して数学の社会的有用性についての認識を深める」にも合致するものと思われる。

2 授業について

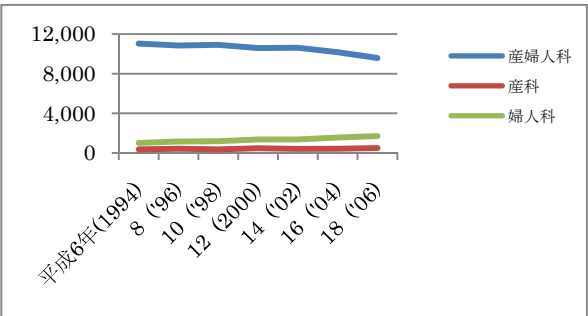
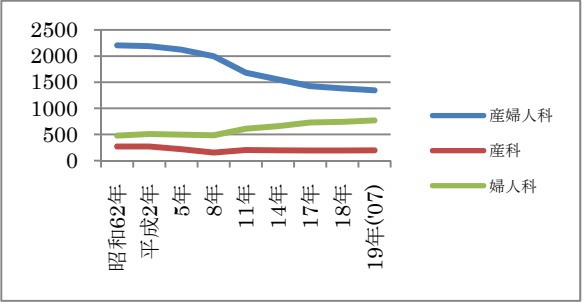
(1)授業計画【1時間】

まず、医師数の年次変化についてデータを提示し、総医師数が増えているにもかかわらず、産婦人科、産科医師数が減っていること、婦人科医師数が増えていることなどを折れ線グラフに表して確認する。また、病院数についても同様に確認する。次に平成12年と平成17年の都道府県ごとの産婦人科病院数のデータを確認し、教師が統計地図を示し、ほとんどの都道府県で産婦人科病院数が減っていることを確認する。その原因や国がとっている対策などについても1時間設定し、調べ学習やレポート発表などをさせてもよい(社会科など他教科との関連性が強くなると思われる)。

(2)授業目標

- データの中から分析に必要な項目を選び出すことができる。
- データに見合った適切なグラフ表示をし、傾向をきちんと読み取る。
- 都道府県ごとの変化をとらえるのに、基準年と対象年を設定し、比率を地図に表す仕組みについて理解できる

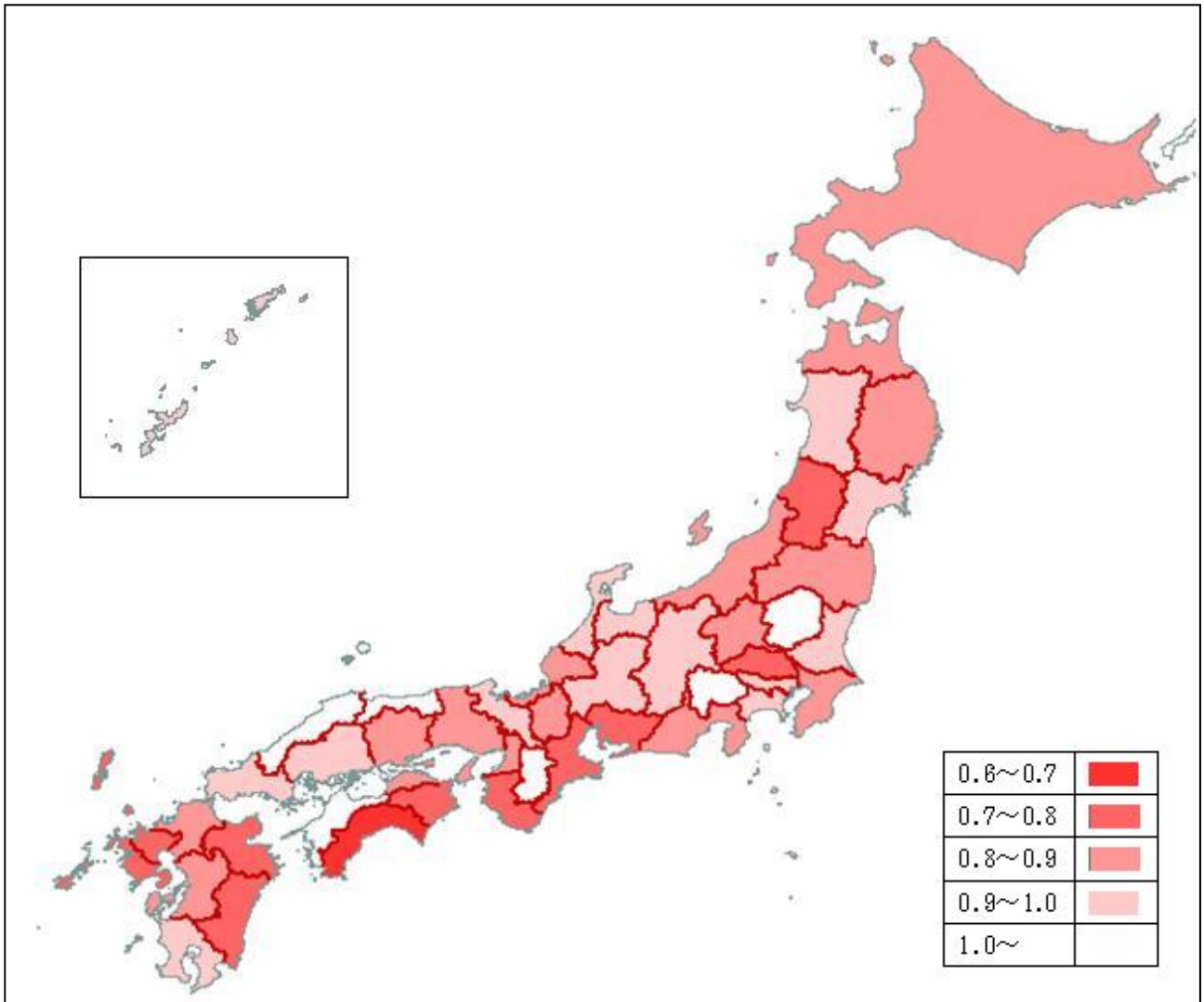
(3)授業展開

	主な発問	予想される反応	留意点
導 入	<p>「最近、産婦人科医師の不足が深刻な社会問題になっていて、例えば、安心して出産できなかつたり、搬送が遅れたことによる事故などが起こったりしているのは知っていますか。」</p> <p>「では実際に産婦人科医師数や病院がどのように変化しているのか見てみましょう」</p> <p>[データ提示]</p>	<p>「新聞やニュースで取り上げられているのを見たことがあります。」</p> <p>「周りで、今は安心して出産できないって話をしているのを聞いたことがあります。」</p>	<p>必要に応じて、新聞記事等を示す。</p>
展 開	<p>「医師数全体に比べて、産婦人科や産科の医師数がどう減っているのか、気付いたことを発表してください。」</p> <p>「病院数の変化についてはどうですか。」</p> <p>「このような意見に対して、疑問や質問はないですか。」</p>	<p>産婦人科医師数の変化</p>  <p>「産婦人科の医師数はどんどん減っている」</p> <p>「産科の医師は少しだけ増えていて、婦人科の医師数はかなりどんどん増えている」</p> <p>「産婦人科と婦人科で増減が逆になっているのはどうしてだろう。」</p> <p>産婦人科病院数の変化</p>  <p>「医師数の変化と似ていて、産婦人科病院数が減っていて、婦人科病院数は増えている。」</p>	<p>気づいたことに対する疑問を挙げさせることを大切にする。</p> <p>総医師数が増えていることとの対比もとらえさせたいが、エクセルによる折れ線グラフ表示に総医師数を挿入すると、縦軸の数値が大きくなりすぎて分析できなくなる。左側と右側で軸の数値設定を変えたものを教員が提示するか、表の中で確認させておきたい。</p>

	<p>「都道府県ごとの格差も大きくなっていると言われて います。都道府県ごとの産婦 人科病院数の変化について 確認してみましょう。」 [データ提示]</p> <p>「都道府県ごとの変化につ いて地図上に示して見やす くしてみましょう」 「ここでは、平成12年を基 準にして、平成17年の時点 でどれくらい増えたり減っ たりしているか割合で表わ して分析してみます。」</p>	<p>「産科病院数はさっきと違って減っている。」</p> <p>「県によっては増えているところもある。」 「47都道府県を一度に折れ線グラフに表すと 見にくくてよくわからない。」</p>  <p>「増加している県はほとんどない。」 「かなり減少している濃い赤色の地域もいくつ かあるね。」 「こういった地域ごとの差はどうして起こるん だろうね。」</p>	<p>データの中で一 番古い平成12年 のデータと重地 番新しい平成17 年のデータを比 較するという視 点について、無 理のないように 導いてやる。</p>
<p>ま め</p>	<p>「わかったことを発表して ください。」 「そのことはデータのどこ からわかりますか。」 「それはなぜだと思います か。」 「今回、疑問に思ったこと についてさらに調べてみま しょう。」</p>	<p>「言われているとおり、実際に産婦人科医師の 数や病院の数は減っている。」 「でも婦人科は増えていて、要は出産を扱う医 師と病院の数が減ってきている。」 「医師数全体が増えているのに、産婦人科医が 減っているというのは、とてもおかしいことだ と思う。」 「都道府県ごとの違いも結構あった。」 「こういった変化が起こっている理由について 調べてみたい」など</p>	

【補足】

都道府県ごとの変化をまとめた統計地図



※平成12年を基準に平成17年の都道府県ごとの産婦人科病院数の比率を色分けしたもの。